

奈良県の地震

【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

【奈良県地震概況】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の一覧】

【奈良県で震度 1 以上を観測した地震の震度分布図】

【地震一口メモ】

液状化現象について

「奈良県の地震」は、奈良地方気象台における地震調査の一環として県内の地震活動状況を的確に把握し、きめ細かい防災対策に資するため 1989 年 1 月より月 1 回発行しています。「奈良県の地震」は、上記の項目で構成し、適宜地震解説資料や用語解説等を掲載します。

※本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成している。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、2022 年能登半島における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（よしが浦温泉、飯田小学校）、2025 年トカラ列島近海における合同地震観測グループによるオンライン臨時観測点（平島、小宝島）、EarthScope Consortium の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。

※震度データは、気象庁の震度計の観測データに併せて地方公共団体、及び国立研究開発法人防災科学技術研究所から提供されたものを掲載しています。

※この資料の震源要素及び震度データは、再調査されたあと修正されることがあります。

奈良地方気象台
2026 年 2 月

本誌の過去分は奈良地方気象台ホームページでご覧いただけます。
URL : <https://www.data.jma.go.jp/nara/jisin/jisin.html>

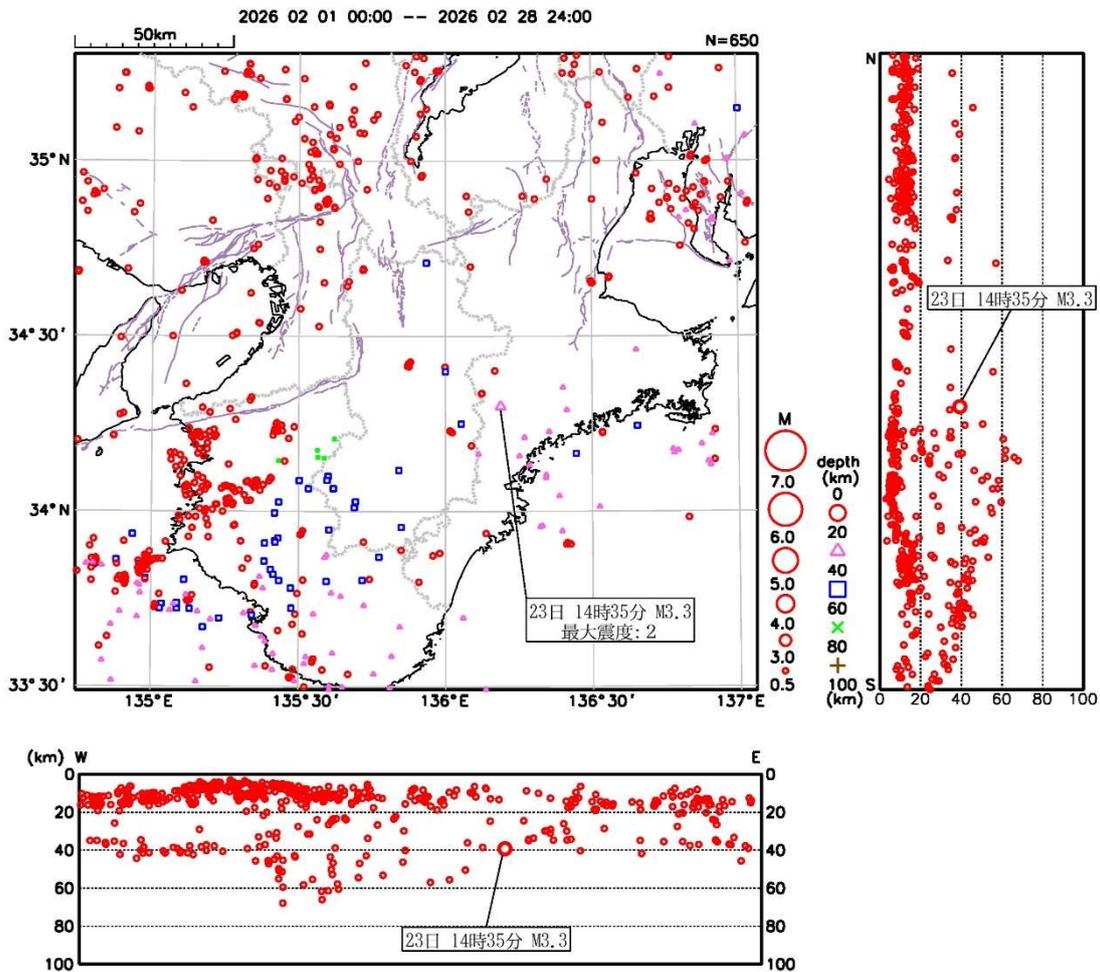


【奈良県の地震活動図】

震央分布図と断面図

震央分布図（左上）は、地震が発生した場所を地図上に表し、記号の大きさと地震の規模（マグニチュード、Mとも表記）と記号の種類で震源の深さを表しています。また、紫色の線は地震調査研究推進本部による主要活断層帯を表しています。南北方向の断面図（右上）と、東西方向の断面図（左下）で地震の垂直分布を表し、これらにより地震の発生状況と規模が把握しやすくなります。

図中の吹き出しは、奈良県内で震度1以上を観測した地震を示しており、地震の発生日時や規模などを記載しています。なお、最大震度は奈良県内とは限りません。



【奈良県地震概況】

23日14時35分 三重県南部の地震（深さ39km、M3.3）により、奈良県内では御杖村で震度2を観測し、曽爾村、宇陀市で震度1を観測しました。

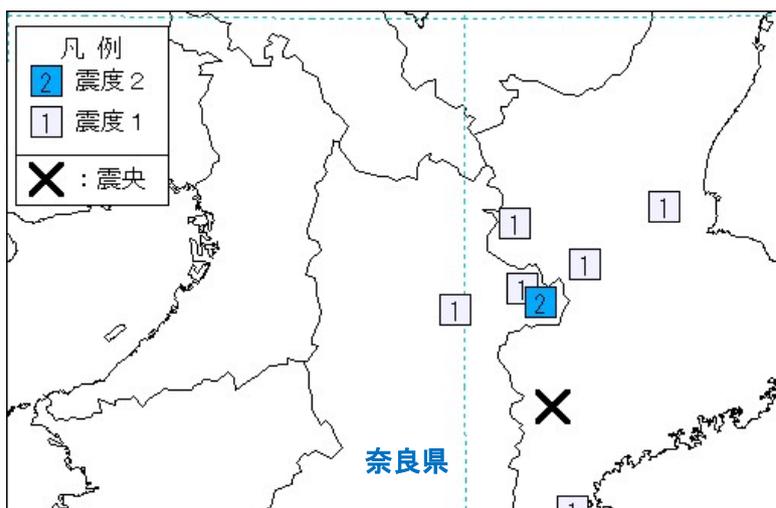
【奈良県で震度1以上を観測した地震の一覧】

震源時(年月日時分)	震央地名	北緯	東経	深さ(km)	M
各地の震度（奈良県内のみ記載）					
2026年02月23日14時35分	三重県南部	34°17.9' N	136°11.3' E	39km	M3.3
震度 2：御杖村菅野*					
震度 1：曽爾村今井*、宇陀市菟田野松井*					

*印は地方公共団体等の震度観測点です

【奈良県で震度1以上を観測した地震の震度分布】

2026年02月23日14時35分 三重県南部 34°17.9' N 136°11.3' E 39km M3.3



観測点震度分布図

【地震一口メモ】

液状化現象について

地震による強い揺れに伴って、液状化現象が発生することがあります。平成7年(1995年)兵庫県南部地震、平成12年(2000年)鳥取県西部地震、平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震などでは地盤の液状化が発生し、建物やライフラインに被害が発生しました。また、令和6年能登半島地震でも発生しました。

液状化現象は、地震によって地面が強く揺れると、地面が液体のようになる現象です。震度階級5弱以上の揺れで生じると言われ、水を多く含んだゆるい砂の地盤や埋立地で発生しやすくなります。液状化現象が発生すると、地盤から水が噴き出したりそれまで安定していた地盤が急に柔らかくなるため、その上に立っていた建物が沈んだり傾いたり、地中に埋まっていたマンホールや埋設管が浮かんできたり、地面全体が低い方へ流れ出す「地盤流動」による被害も起こります(図1、図2、図3、図4)。



図1 液状化の被害写真(気象庁技術報告第119号第4章資料集)

平成7年(1995年)兵庫県南部地震でケーソンが移動し、約1.5mの陥没が発生
神戸市中央区北公園西側・ポートアイランド

https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/1995_01_17_hyogonanbu/tech/119_04_datum.pdf



図2 液状化の被害写真(平成12年10月地震・火山月報(防災編))

平成12年(2000年)鳥取県西部地震で液状化により漁港施設に被害が発生
鳥取県境港市境港漁港

<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/monthly/200010/monthly200010.pdf>



図3 液状化の被害写真（平成30年9月地震・火山月報（防災編））
平成30年北海道胆振東部地震で液状化により道路の陥没が発生
札幌市清田区里塚地区

<https://www.data.jma.go.jp/eqev/data/gaikyo/monthly/201809/201809monthly.pdf>



図4 液状化の被害写真（災害時地震・津波報告 令和6年能登半島地震）
写真左 令和6年能登半島地震で液状化によりマンホールの隆起が発生
石川県志賀町末吉千古

写真右 令和6年能登半島地震で液状化により地盤の隆起が発生
新潟市西区寺尾東

https://www.jma.go.jp/jma/kishou/books/saigaiji/saigaiji_2024/saigaiji_202403.pdf

自治体のハザードマップを参照すると地域の液状化危険度を見ることができます。図5は奈良盆地東縁断層帯が活動した場合に予想される県内の液状化危険度分布図です。奈良市から五條市にかけて平野が広がる地域を中心に、液状化危険度が高くなっています。

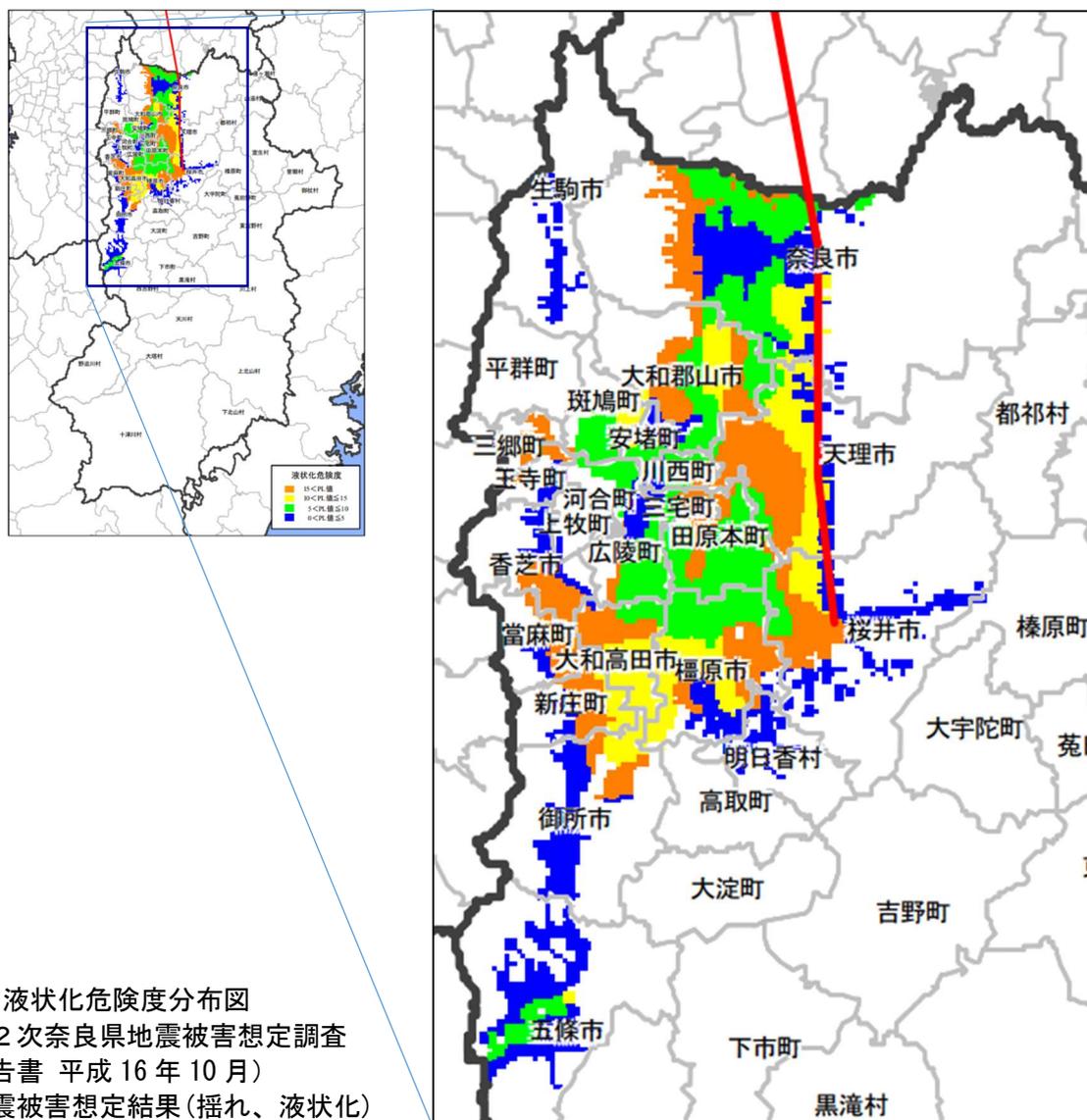


図5 液状化危険度分布図
 (第2次奈良県地震被害想定調査
 報告書 平成16年10月)
 地震被害想定結果(揺れ、液状化)
 内陸型地震1(奈良盆地東縁)

<https://www.pref.nara.jp/40777.htm>



液状化危険度	
 15 < PL 値	極めて高い (詳細な調査と対策が必要)
 10 < PL 値 ≤ 15	高い (重要な構造物は詳細な調査と液状化対策が必要)
 5 < PL 値 ≤ 10	高い (重要な構造物は詳細な調査と液状化対策が必要)
 0 < PL 値 ≤ 5	低い (特に重要な構造物では詳細な調査が必要)
 PL 値 = 0	かなり低い (詳細な調査は無用)